

地域スポーツクラブマネジャーの日常生活経験

～ゴールデンウィークと通常ウィークでの比較～

○遠藤晃弘 [東海大学観光学部観光学科]

キーワード：日常生活経験 地域スポーツクラブマネジャー

I はじめに

本研究は、地域スポーツクラブ（以下クラブと略す）の運営を、熱心に行っているクラブマネジャーが、どのような日常生活経験をしているかを明らかにしようと計画した。

そのきっかけは、クラブへのアドバイザー業務を前職としてきた本研究者の経験からくる、次のような疑問による。「クラブの運営をしながら生活している彼らの姿を見てみると、仕事とレジャーの境界がなく、実に楽しそうに生きているように見える…。例えばゴールデンウィークのような連休も、通常ウィーク同じような生活をしているのではだろうか…。」

レジャー白書(公益法人日本生産性本部,2010)は、今後10年の余暇の需給構造の変化を展望し、特に高齢者層で、「社会や人のために役立つこと」へのニーズが高まると予測している。さらに「余暇＝オフ」といった単純な切り分けが難しくなり、「オン」と「オフ」がボーダレス化する方向で変化が進むと予測している。

クラブマネジャーは社会や人のために役立つ活動を実践している例として考えることができる。生活中の多くの時間をクラブ運営に費やすことが彼らの生活や気分に応じたような影響を与えているのか。その実態を明らかにするため、行為者の心理面を含め、生活経験をまとめて捉える Experience Sampling Method(経験標本抽出法、以下ESMと略す)を用いて、データを収集し、分析することとした。

II 研究の目的

本研究は、地域スポーツクラブマネジャーの日常生活経験を明らかにすることを目的としている。具体的には、彼らが「いつ」「どこで」「誰と」「何をして」「どのような気分」で過ごしているのか全体傾向を把握し、ゴールデンウィークと通常ウィーク別で比較・検討を加えた。今回は、最初のステップとして神奈川県内にある地域スポーツクラブに所属し、中心となってクラブ運営を行っている有資格のクラブマネジャーからデータを収集した。

III 研究の方法

1. 調査法

研究の目的を明らかにするため、ESMを用いた。ESMは、人々が日常生活の中でどのような経験をしているかを、その時の主観的な心理状態と合わせて測定するために、1970年代後半に北米でCsikszentmihalyi、Larsonらによって開発された。これは、「いつ」「どこで」「だれと」「なにを」「どんな気分」で行っているのかをまとめて捉える方法である。本研究ではその後、Larson、西野によって、日本人用に修正されたESMを用いた。

具体的には、まず調査協力者1人に腕時計と調査票1冊を配布し、1週間の調査期間中、常に携帯してもらった。そして、それぞれの調査協力者に対して腕時計のアラームで呼び出しを行い、それに気づいた調査協力者に、その時の経験などをできるだけ早く調査票に記入してもらった。質問項目は「呼び出しを受けた時刻」、「回答を記入した時刻」、「どこにいたのか」、

「誰といたのか」、「何をしていたのか」、「どんな気分だったか」などである。調査時間帯は、7:00～21:59 までの間とし、2 時間ごとのランダムな時間に 1 回、1 日合計 7 回の呼び出しを行った。

2. 調査協力者

調査協力者は、神奈川県内にある地域スポーツクラブに所属し、中心となってクラブ運営を行っている有資格のクラブマネージャー5名である。本研究者が、個別にアプローチし、任意に選出した。5名が所属するクラブは、いずれも、文科省が政策として設立を推進している「総合型地域スポーツクラブ」として神奈川県立体育センター（広域スポーツセンター）に届けられている住民主体の非営利組織である（3名のクラブはNPO法人）。

3. 調査期間

調査は、まず、ゴールデンウィークの期間である 2010 年 4 月 29 日(木)～5 月 5 日(水)の 1 連続して行った。続いて、通常ウィークの期間として 2010 年 7 月 8 日(木)～7 月 14 日(水)の 1 週間連続して実施した。合計 2 週間分のデータ収集を行った。

4. 調査票

調査票は、①Experience Sampling Form(経験標本記録表、以下 ESF と略す)、②Experience Diary Form(一日の経験記録表、以下 EDF と略す)、③Subject's Information Form(調査協力者の情報調査票、以下 SIF と略す)の 3 種類を用いた。ESF と EDF は腕時計とともに常に携帯してもらうため、合わせて 1 冊の調査票になっている。ESF は腕時計のアラームが鳴ったら、「いつ」「どこで」「だれと」「なにを」「どんな気分で」などの質問の答えを記入してもらうもので、1 日 7 回、1 週間で合計 49 回の回答ができる。EDF は 1 日の終わりにその日の ESF の記入状況を自己評価する項目に答えるもので 1 日 1 回、1 週間で合計 7 回の回答ができる(1 日の大まかな流れを書く欄もある)。さらに SIF は調査協力者の性別、家族構成、趣味、生活の意識レベルなどの情報を得るためのアンケートで ESF 調査前に実施した。

5. 分析

調査票回収後、コード化、スクリーニングを行い、5 名 410(83.67%)の日常生活経験のデータについて分析した。分析はエクセル統計を用いた。

IV 結果及び考察

地域スポーツクラブマネージャーは、「どんな活動をしているか」「どんな場所にいるか」「誰と一緒にいるか」「どんな気分にいるか」について、ゴールデンウィークと通常ウィークでの比較分析等を行い、学会発表時に報告する。

主な参考文献

- 1)西野仁、中学生の 1 週間の生活リズムと「ゆとり」の構造について、平成 11 年度～13 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書、2002
- 2)西野仁、高校生の日常生活経験調査研究報告書、1998